

## サービス産業統計研究会（第6回）議事概要

1 日 時 平成22年11月25日（木）14:00～15:50

2 場 所 総務省第2庁舎6階特別会議室

3 出席者 委 員：廣松座長、引頭委員、椿委員、阿部委員（内閣府）、平野委員（経済産業省）

事務局：丹下統計調査部長、水上調査企画課長、高見統計調査研究官、井上経済統計課長、木下経済統計課調査官、岩佐経済基本構造統計課長

### 4 議 題

- ・ 調査の見直しについて

### 5 議事概要

事務局から、資料に基づき、「調査単位、調査事項、調査方法及び標本設計の基本的な考え方（資料1）」及び「年次統計の設計イメージ（資料2）」について説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

\* 「調査単位、調査事項、調査方法及び標本設計の基本的な考え方」について

- ・ 他調査への影響を考慮しても、一部企業単位の調査を導入する方向性で良い。
- ・ 調査単位、調査事項、標本設計など、この方向で良いが、この調査は日本のサービス産業の生産性を計るということも目的と認識。そのためには人と売上高をとる必要がある。この点に留意すれば意義のあるものになると思う。
- ・ この方向（一部企業単位の調査を導入）で基本的に（SNAの）推計に影響はない。いかに正確なデータを集めるかが問題。現在の方法で売上高を正確に把握するのが難しいのであれば、これも一つの考え方だと思う。
- ・ 調査方法の見直しについては、民間委託の内容に影響するものだと思うので、今後更なる検討が必要。

\* 「年次統計の設計イメージ」について

- ・ 二次統計として付加価値の把握を研究することはとても意義がある。
- ・ 地域別に関しては、データの回答しやすさに配慮した設計をするなど、企業が実在する場所に着目した設計をすることも必要ではないか。
- ・ 年次統計では構造の側面も重要。月次調査の特定月に従業者の内訳をとるなど、調査項目を拡大し、年次で必要なものをとるという考えも必要ではないか。
- ・ 年次で活動別の従業者数をとるのも一つの方向だと思う。
- ・ 付加価値の部分は、サービス産業ではデータが限られている。また、一般管理費や減価償却費などの扱いは地域別に考えると難しい。

\* 次回について

- ・ 次回は、調査事項、標本設計等を検討することとされた。